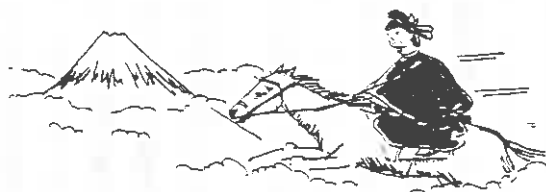


# 聖徳太子の富士登山

昭和五十九年九月五日号



私たちが誇る日本の富士山、この富士山に、第三十三代推古天皇のとき、摂政であった聖徳太子が馬に乗り、空を飛んで富士登山をしたという伝説があります。今回は、鈴木富男著「富士市の伝説と昔話」の中から聖徳太子の登山の話を紹介します。

## 山の神に教えを請う

聖徳太子が摂政の頃、良い馬を献上させた話は有名です。多くの馬の中で、すばらしい馬が一頭いました。

太子は大層喜び大切に飼わせました。その

年の秋、調教ができたのでためし乗りをしました。太子がまたがり、手綱を引きム子をあてると、馬はすごい勢いでとびだし、東の空へ飛んでいきました。アツ、と驚いた宮人たちは、顔色を変えて騒ぎだしましたがどうしようもありません。

ところが三日目の朝、太子はひよっこ帰り「とても愉快だった。空へ飛び上がって、雲の中をしばらく飛んだと思ったら、富士山の頂上だったよ。富士山を見物して帰ってきた」とおもしろそうに話しました。

御殿へ上った太子は、富士山の出来事を詳しく話しました。

「頂上にあると大きな岩穴があった。この穴を進むと金色に輝く岩が並び、金銀でつくられた美しい門があった。さらに進み、奥の

院らしい境内へ入ると両眼をぎらぎらさせ、剣のような舌をだし、口から火を噴いている大蛇がとくろを巻いていた。

私はこれが山の神だと思い、ひざまずいて『人民のためにどのような政治をしたらよいか教えてもらいたい』とお願ひした。すると大蛇は、大日如来の姿に変わり、『和をもつて貴しとなし、あつく三宝をうやまい、礼をもつて本とせよ』とおおせられた。私は必ず教えに従うことを約束して、再び馬に乗って帰ってきた」と一同に話しました。